

関根浜及びその周辺地域漁業振興調査 サケ稚魚海中飼育試験 (要 約)

横山 勝幸・小倉大二郎^{*1}・金田一拓志・工藤 敏博
福田 慎作・横谷 要一^{*2}・長津 秀二^{*3}

この調査は、県が日本原子力船研究開発事業団から委託されたもので、昭和57年度から実施しており、本年度が最終調査年度である。ここでは、当センター魚類部が担当したサケ稚魚海中飼育試験の概要について記すに留める。なお、詳細は「昭和59年度関根浜及びその周辺地域漁業振興調査結果報告書、青森県、昭和60年」を参照されたい。

試 験 の 目 的

関根浜及びその周辺地域へのサケ回帰資源の増大を図るため、海中飼育技術の導入による親魚回帰率向上の実証試験を行い、今後の外海域での海中飼育事業の資料とする。

59年度の状況、問題点およびまとめ

1 大 畑 地 先

大畑漁港孫次郎間の水深3～3.5m地点にフロート生簀を2ヶ統設置し、大畑町漁協さけふ化場産のサケ稚魚計2,662千尾を海中飼育し、放流した。3試験群を設定し、15～32日間の飼育後、141千尾について標識を符した（脂鰭＋左腹鰭切断）。

2 野 牛 地 先

東通村野牛漁港内の水深3m地点にフロート生簀を1ヶ統設置し、野牛漁協さけふ化場産のサケ稚魚計2,460千尾を海中飼育し、放流した。2試験群を設定し、19、28日間の飼育後、120千尾について標識を符した（脂鰭＋右腹鰭切断）。

3 問題点およびまとめ

津軽海峡に面した当該地域の海況については、①潮立差が大きく、最大時で干満差が約1.5mに達すること、②うねりが大きく、時化の際には港内でもその波高は4～5mに及ぶこと等の施設保持上の問題点があるが、十分な飼育管理を適当な飼育海面が確保されれば、内湾域と遜色のない結果を期待できることが明らかとなった。

*1 60年度より青森県水産試験場

*2 大畑地方水産業改良普及所

*3 むつ地方水産業改良普及所